

2018（平成30）年度 特許情報普及活動功労者表彰

特許庁長官賞

【特許情報活用普及功労者】

株式会社イーパテント 代表取締役社長、KIT 虎ノ門大学院客員准教授
野崎 篤志

1. 受賞にあたって

この度は「特許情報普及活動功労者表彰」において、特許庁長官賞という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

今回の受賞にあたって、これまで調査・分析およびコンサルティングプロジェクトを通じて、様々なことを学ばせていただいたクライアントの皆様、セミナー・講演にご参加いただき、ディスカッションや質疑応答でいろいろな気づきを与えていただいた受講者の皆様、一緒に職場で働き育てていただいた日本技術貿易株式会社（以下 NGB）およびランドン IP の皆様、そして様々な面にわたって日々情報交換させていただいている友人の皆様に厚く御礼申し上げます。関係者の皆様あつての受賞であると、ひしひしと感じております。

2002年4月に知財業界に入ってから17年ほどの経験ではありますが、以下に今までの活動を振

り返って、皆様への感謝とともに私の特許情報のさらなる普及および活用への想いをお伝えできればと思います。

2. 特許情報との出会いとその魅力

私は理工系の大学院を修了しておりますが、研究職への就職は一切考えていませんでした。大学院時代に衝突噴流群の熱伝達制御というテーマで実験を行っていましたが、実験以上に好きだったのが図書館に籠って、研究テーマに関する過去の文献について収集・整理することでした。そのため、リサーチやコンサルティング業務に従事したいと考えておりました。

しかし、最初から知財業界においてリサーチ・コンサルティング業務を行いたいと思っていたわけではなく、シンクタンクやコンサルティングファームへ応募する過程で、NGBの存在を知り、ご縁をいただき就職し、特許調査・分析業務を担当するIP総研に配属されました。これが私の特許情報との出会いです。

特許情報というのは権利、技術、経営の3つの側面を持つ情報と言われますが、この多面性により調査・分析対象としての特許情報の魅力に早々に取り憑かれました。NGB入社早々は無効資料調査や侵害防止調査、技術収集調査を主に担当していましたが、入社1年目の後半に技術動向分析プロジェクトを担当させていただいたことがきっかけで、早々に特許分析の楽しさ・奥深さを知ることができたのは非常に幸運でした。当時のクライアントと上司には大変感謝しております。



3. 私のキャリア

— 特許情報実務とマネジメント —

スタンフォード大学のクランボルト教授が提唱したキャリア理論として「計画された偶発性理論 (Planned Happenstance Theory)」があります。個人のキャリアは予期しない偶然の出来事によって大きく影響されるため、その個々の偶然の出来事に対して最善を尽くしていくことでステップアップできるという考え方です。

私はキャリアパスを計画的に立てるタイプではないのですが、今から振り返ると

- 2002～2009年：特許情報実務
- 2010～2017年：特許情報実務+マネジメント
- 2017年～：独立起業

の3つのフェーズに整理できると考えています。

最初は一担当者として特許調査・分析業務に従事して、様々な知識やスキルを身に着けたフェーズです。現在のように特許検索・調査や分析に関するテキストや書籍は当時あまりなかったので、先輩からのOJTや日本ファームドック協議会などの社外研究会における他社の方々との交流を通じて、いろいろなことを学ばせていただきました。後輩の育成指導という点で、いつか特許調査や分析について体系的にまとめたいという想いを抱いたのもこの頃で、その後のウェブサイト・メルマガ等での情報発信や書籍執筆につながったと感じています。

2009年に現在客員教員を務めているKIT 虎ノ門大学院（金沢工業大学大学院）に入学し、経営・



株式会社イーパテント 代表取締役社長
KIT 虎ノ門大学院客員准教授

野崎 篤志

《プロフィール》

(経歴など)

- 2002年3月 慶応義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻修了
- 2002年4月 日本技術貿易株式会社入社、IP 総研にて特許調査・分析業務に従事
- 2010年3月 金沢工業大学大学院工学研究科 ビジネスアーキテクト専攻修了
- 2012年4月 ランドン IP 合同会社シニアディレクター (日本事業統括部長)
- 2014年4月 東京理科大学 非常勤講師(～2018年3月、担当科目:知的財産権、情報収集解析)
- 2017年5月 株式会社イーパテントを設立し、代表取締役社長に就任
- 2017年4月 KIT 虎ノ門大学院客員准教授(担当科目:特許情報実務特論、IP ランドスケープ要論)

(主な著書)

- ・特許情報分析とパテントマップ作成入門 改訂版 (発明推進協会、2016年)
- ・特許情報調査と検索テクニック入門(発明推進協会、2015年)
- ・調べるチカラ(日本経済新聞出版社、2018年)

(主な対外活動)

- ・発明推進協会、大阪発明協会、京都発明協会、北海道経済産業局など各種機関の研修講師
- ・特許庁 JPO/IPR 研修講師
- ・3i 研究会・研究アドバイザー
- ・平成22年度 独立行政法人工業所有権情報・研修館「知財情報の有効活用のための効果的な分析方法に関する調査研究委員会」委員
- ・次世代情報解析スペース NGIAS (VALUENEX 株式会社と共催)

マーケティングや財務・組織人事について学びました。昨今のIP ランドスケープもそうですが、知財情報を経営・事業へ生かそうとするのであれば、経営や事業部門サイドの方がどのような考え方をしているのか、知財業界の外に出て学ぶべきだと思ったからです。KIT で学んだ経験は、その後の特許分析やコンサルティング実務だけではなく、NGB やランドン IP におけるマネジメントにおいて非常に有効であったと感じています。

ランドン IP では5年間にわたって日本オフィスを統括しましたが、組織の規模が拡大するにつれて、自らが特許調査・分析プロジェクトに従事する機会は減っていきました。組織マネジメントよりむしろ、実際のプロジェクトを担当して、より密接にクライアントをサポートしたいという想いのもと、独立起業して2017年5月にイーパテントを設立しました。現在はセミナー・講演だけではなく、技術動向分析や競合他社分析、発明創出ワークショップ、新規事業開発支援や知財情報分析体制構築のコンサルティングなど多種多様なご相談をいただき、日々成長の機会をいただいている点、クライアントの皆様には大変感謝しております。

振り返ってみると、これまでのキャリアを通じて、好きなこと、興味あることに注力してきましたが、本当に様々な方とご縁、そしていろいろなチャンスを得たことで、今日の自分があるのだと痛感しています。



4. 情報発信活動

— ウェブ、セミナー、書籍等 —

大学院時代に個人的な趣味で、研究テーマに関する情報や、熱流体力学で用いる無次元数（レイノルズ数など）について集めたウェブサイトを作っていました。情報というものはストックするだけではなく、フローさせることで、自分自身のストック蓄積につながると考えていたためです。そのような考えもあり、2005年7月に「e-Patent Map.net」というポータルサイトを作り、知財業界における情報発信活動を始めました（現在は e-Patent という名称に変更、更新停止中）。このウェブサイトがきっかけで、セミナー会社の方からお声がけいただき、セミナーや講演活動を行うようになりました。

最初の講座を担当した2006年から続けているセミナーテーマとしては MS Excel を用いたパテントマップ作成があります。各種パテントマップ作成ソフトや分析ツールが発達してきたので、2010年ぐらいには「もう MS Excel でマップ作成というテーマは廃れるだろう」と考えていましたが、高価な分析ツールを導入できない組織の方々はまだ多く、現在でも多数の方に受講いただいているのは講師冥利につきます。加えて2018年3月の J-PlatPat の機能改善によって、結果一覧に掲載される表示項目や表示件数が増えたこと、公開系・



登録系データベースが1つに統合されたこと、整理標準化データが反映されるようになったこと等で、以前よりもバリエーション豊かな分析・パテントマップ作成ができるようになったことは、今後の特許情報活用のさらなる普及へのはずみになると感じています。今後のJ-PlatPatの機能改善に期待しています。

「e-Patent Map.net」以降の情報発信活動として、「e-Patent Search.net」や「特許電子図書館を使った特許検索のコツ（現在は「J-PlatPatを使った特許検索のコツ）」というメルマガを発行し、特許検索・調査や分析スキルの暗黙知から形式知化に取り組んできました。その成果を「特許情報分析とパテントマップ作成入門」および「特許情報調査と検索テクニック入門」の2冊に書籍化したことで、特許情報活用の普及に多少なりとも貢献できたのではないかと考えております。書籍化の機会をいただいた発明推進協会の方には厚く御礼申し上げます。

なお、暗黙知の形式知化は重要ですが、形式知化された考え方やテクニックがあらゆる場面に適用できるとは考えていません。あくまでもベースとなる考え方・テクニックの1つとして捉えていただき、あとは利用していただく方々のシチュエーションに応じて適宜アレンジを加えていただく必要があります。同じことは分析ツールや分析手法についても言えるかと思います。

「教えることは学ぶこと」と言いますが、拙著や拙稿を読んだ方、セミナー・講演に参加いただいた方からの質問やコメントというのは、実際の分析プロジェクトから得られる学び・気づきとは異なっています。スキルが習熟すればするほど、当たり前と思って説明を端折ってしまうところが実は重要なポイントであったり、より分かりやすく体系化するためのヒントをいただいていると強く感じています。

特許情報活用をより広めていくためには個人ベースでの研鑽と組織ベースでの意識改革が必要だと考えています。自分自身のスキルをより磨くという点では「学んだことを人に伝える・教える」ことが最



も効果的です。インプットばかりでなく、アウトプットもバランスよく行っていただく点で、ツイッターやFacebook、LinkedInなどのソーシャルメディアを活用するのも1つの方法かと考えています。また組織レベルについては、一朝一夕でうまくいく方法はありませんので、知財部門内だけではなく、経営層や事業部門などの他部門の方とのコミュニケーションを継続することが不可欠だと思います。

5. 最後に

2000年代に入って、「経営戦略の三位一体」、「経営に資する知財」、そして昨今の「IP ランドスケープ」を通じて、知財情報の経営・事業へのより積極的な活用に注目が集まっていますが、企業情報やマーケット情報などの他の情報に比べると、まだまだ特許情報活用が十分には進んでいないと感じています。

「知財情報を組織の力に」というモットーを掲げて、知財情報コンサルティングに特化したイーパテントを設立したのは、この問題意識に基づいています。今後も、より多くの方々に特許情報を組織における様々な活動に活用していただけるようサポートさせていただくとともに、特許情報調査および分析の楽しさをお伝えできればと考えています。

この度は大変栄誉ある賞をいただき本当にありがとうございました。